

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: 80%以上	3 2: 60%以上 1: 60%未満	1. 定期考査や面談を機会に、学習計画表や学習カルテを活用し、生徒一人ひとりに学習の仕方やつまずきに対する指導を行うことで、学力定着の向上を図っていく。 2. 到達度に応じた目標を持ち学習に取り組むため、習熟度別少数授業(数学・英語)と学力向上教師によるティームティーチング(国語)を行い、今後も習熟度に応じた支援を行い学習目標の達成を目指していく。 3. 基礎学力の定着が十分でない生徒に対応するために、放課後と土曜日に補習教室を行い、丁寧な指導により基礎学力と学習習慣の定着を図っていく。 4. コミュニケーション能力育成のため、英語の授業ではALTの活用を図り、総合的な学習の時間では外国の方を講師に招き、文化的な相互理解を深めていく。 5. 大田区学習効果測定などの学力調査を分析し、指導の重点項目を明らかにして指導方法の工夫・改善をまとめた「授業改善推進プラン」を生かした授業を行う。 6. 言語活動の充実を目指して話し合いや発表の場を設けた授業を行い、ICTを活用し生徒が主体的に関わりながら理解する授業を行うことで、アクティブラーニングを実践する。	◆「これまでの取組」の分析が明確で、改善策も具体的に記載されているため、評価は適切だと思います。 ◆個々の学力向上のために、一人一人にきめ細かく指導している様子が見えかける。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 70%以上			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2: 60%以上			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	2: 60%以上			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1: 60%未満			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: ① 90%以上 ② 2.5%未満	2 2: ① 70%以上 ② 4%未満 1: ① 70%未満 ② 4%以上	1. 小学校からの生活スタンダードを引き継ぎながら、これからは「みだしなみ、そうじ、あいさつ、じかんをまもる」の「みそあじ」を基本として、学校のきまり、社会のルールを身につけさせる。 2. 道徳教育の指導充実のため、校内研修では道徳について研究授業を行い、授業の進め方や評価について研習した。今後も道徳の教科科に向けて、指導と評価についての研修を行っている。 3. 学校生活調査の活用により、ストレス症状や自己有用感について確認したり、Q-U調査により、集団内での承認や非侵害について調べることで、これからは課題のある生徒について教員が共通理解をはかりながら組織的に対応していく。 4. いじめの未然防止のため、道徳教育や人権教育を充実させ、生徒会のあいさつ運動などいじめを生まない明るい学校環境を作る取り組みを行った。また、SCの全校生徒面接や教育相談週間の活用により、いじめの早期発見に取り組んだ。 5. 問題行動や不登校に関わる生徒への対応では、学年会や生活指導部会で情報を共有して対応し、難しい問題に対してはケース会議を実施して問題の解決を図る。 6. 教員は休み時間など日常的に生徒と会話しながら信頼関係を構築している。観察や情報収集を通して生徒のよき所を認め、自己有用感を高めている。	◆今のいじめは、目に見えないところで起こっているため、いじめ防止のさまざまな取り組みが必要だ。教員間での意思の疎通が図られていて良い。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: ① 80%以上 ② 3.5%未満			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス状態のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: ① 70%以上 ② 4%未満			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	2: ① 70%以上 ② 4%未満			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	1: ① 70%未満 ② 4%以上			
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4: 80%以上	2 3: 70%以上 2: 60%以上 1: 60%未満	1. 体力向上を目指した「一校一取組」としてマラソン大会を実施し、目標記録更新を目指して、練習期間からの継続した取り組みを行っている。 2. 5月と10月を「早寝・早起き・朝ごはん」月間として、プリント資料や学級指導により、家庭と協力しながら基本的な生活習慣と望ましい食生活の確立を目指していく。 3. 給食指導では、給食だよりを通して地産の食材についての紹介や栄養と健康に関する情報を発信し、生徒の食に対する興味・関心を高め、食生活の充実を目指している。 4. 生徒の運動習慣確立のため、10月に縄跳び週間、11月にマラソン大会を実施し、休み時間の練習を含め、継続して運動する機会を設けている。 5. 部活動に教員がみな関わりを持ち、生徒がスポーツや音楽、書道・ものづくりなど、自らの資質や能力を伸ばし豊かな学校生活を送ることを目指している。	◆生徒にとって、部活動は学習以上に重要かもしれない。マラソン大会も、努力が結果として表れるので、努力し易いといえる。スポーツだけでなく、文化系の部活動もあり、個々の資質に合った部活動に参加できるのは良い。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3: 70%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	2: 60%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	2: 60%以上			
		生徒のやる気を引き出し、生徒の個性や能力を伸ばす部活動指導を全教員が取り組む。	1: 60%未満			
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 90%以上	3 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	1. 各学期におこなう授業公開日には、保護者から頂いたご意見をすぐにまとめて教員にフィードバックし、授業改善に生かしている。多くのご意見が集約できるように、授業公開日への参加を呼びかけていく。 2. 各教科の教員は夏期休業中の授業改善セミナーに参加して授業力向上のための研修を行っている。校内では「見合う授業」による教科を越えた研修を行い、授業力向上を目指していく。 3. おおたの教育研究発表会をはじめ、区内小中学校の研究発表会に全教員が一回以上参加しているため、その発表会における成果を自身の授業改善に生かしている。 4. ICTサポーターの協力の下、ICT機器の活用手段やICT機器を利用した授業の構成などに取り組む、生徒の学ぶ意欲の伸長を目指す。 5. 校内委員会を兼ねた生活指導部会で、特別支援教育に関する情報を共有し、全教員で理解を促しながら特別支援教育を推進していく。 6. 各教科で評価基準が適正であるか確認し、学期ごとの評価の検証も慎重におこなった。生徒、保護者が評価方法を十分に理解できるよう、これからも授業や保護者会の中で評価方法の説明を丁寧に行っていく。	◆ICT機器の導入により、生徒はゲーム感覚で学習でき、学習能力が高まると思われる。「見合う授業」は、指導力向上のためには非常に良い取り組みだ。 ◆左記2、3、4、5につきましては、保護者を含め、外部に伝わりにくいと思います。他の大項目についても言えることですが、学校のホームページを活用し、積極的に情報発信されることを望みます。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: 80%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: 70%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	2: 70%以上			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1: 70%未満			
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりたい。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 80%以上	4 3: 70%以上 2: 60%以上 1: 60%未満	1. 教育目標、学校経営方針、学校評価について、学校だよりや学校ホームページに掲載したり、学力向上推進プランやいじめ防止基本計画などの情報を広く発信した。 2. 地域教育連絡協議会で学力調査の分析結果や学校生活の様子、生徒たちの健康に関する情報などを提供し、現状をよく理解していただき、適正な学校評価がおこなわれるようになっている。 3. 学校支援本部の方々に、見守りパトロールや学校行事の手伝い、面談練習などのマナー指導などについてご協力いただき、生徒は地域の方々の協力を強く感じている。 4. 家庭学習の習慣を定着させるため、定期考査前に学習計画の作成と実施後の確認を行い、目標に向けて計画的に学習ができるよう取り組んだ。 5. 自治会主催の行事や祭礼などに、生徒が手伝う立場で参加することにより、地域に貢献し、地域の方々と交流を深める機会を持つことができた。	◆中学生は、小学生と異なり、地域の行事に係わることが少ない。本校は、生徒会を中心に様々な地域行事に積極的に参加している。地域行事での生徒の様子を見ると、自ら進んで与えられた役割を想像以上にこなしている、参加者から賞賛されている。このような生徒が多くなることを期待しています。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。	3: 70%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	2: 60%以上			
		生徒の学力の向上を図るために、毎日の家庭学習を励行する。	1: 60%未満			
		地域や関係諸機関の行事やイベントに積極的に参加して、地域の人々との交流を大切にするとともに地域に貢献しようとする生徒を育成する。	1: 60%未満			
特別活動の活性化	生徒一人一人の自主性や自立性を育みながら生徒会活動の活性化を図る	2020東京オリンピックバレーボール開催を踏まえ、生徒の自主性や自立性を伸ばす指導を行い、生徒会活動の活性化を図る。	4: 80%以上 3: 70%以上 2: 60%以上 1: 60%未満	4	1. 生徒会本部では、学力向上やあいさつ運動によるいじめのない明るい学校作りのため、また、各専門委員会では学校生活をよりよくするために、自主的な生徒会活動を進めることができた。 2. スクールカウンセラーは全校生徒面接を行い、また、学級担任は生徒の毎日の記録に目を通し返信し、日常的に情報収集と生徒理解に努めている。	◆前欄にも書いたが、生徒会活動が活発であると推測される。